

summary
要約版

Discussion

今回の実証調査を踏まえた考察～金沢医科大学助教・医師 田邊望氏

農福連携の健康効果

身体面

障害者の農作業日、通常業務日、休日の活動量を測定比較した結果、生活習慣病予防に効果のある運動負荷での活動量に関し、他の日と比較して農作業日で有意に大きい結果。

資料24 p～
動画10分10秒～

※先行研究による

精神面

精神活動と不可分な睡眠に着目し、定量的に測定・分析。

- ・ 睡眠潜時（寝付くまでにかかる時間）
→農作業により障害者の睡眠潜時は悪化せず
- ・ 睡眠効率（ベッドに横になっているうち実際に寝ている時間の割合）
→農作業により障害者の睡眠効率は悪化せず
- ・ 中途覚醒（寝ている間に目を覚ましていた時間）
→農作業は障害者の中途覚醒を有意に減らした

資料45 p～
動画21分05秒～

資料50 p～
動画25分05秒～

資料53 p～
動画25分38秒～

農作業は障害者の睡眠の質を改善した。

社会的

- ・ 障害者は作業効率の上下動が激しく、健常者より環境変化に左右されやすい可能性
- ・ 障害者群と健常者群とで作業効率の伸び方は同等

資料64 p～
動画31分43秒～

資料73 p～
動画35分40秒

障害者は集団でみた場合、作業内容・環境を工夫することで健常者と同等の成長を期待できる。個々バラバラな状況の障害者が集団として作業を行うことで全体としての作業効率を伸ばすことができるのではないか。

資料78 p～
動画36分55秒～



summary
要約版

Excerpt

パネルディスカッション～主催者による抜粋

健康効果等について

- 障がい者の方を受け入れている農業者に農作業の健康効果について聞いてみると、運動面での農作業ということと、労働の中での農作業というのは違うといった感覚を持っている方がいらっしゃる。しかし、この実証調査のデータなりを知っていただく機会が増えることで、農業者の方の認識や取組の仕方なども変わってくるのではないかと感じた。
- 産業界の皆さんは、農業が良いというのは分かるけれどそれをやると何に効果があるとか、何が起こるか分からないという怖さがあるって手が出せないという断り方をされることがある。そういった意味で、これからは農業というものが科学的にどういう効果があるとか、農業というものを科学として考えて、いろんな作用を科学的に証明していけるようになれば、もっといろんな人たちが関われるようになってくると思う。その第一歩としてこの事例に意味が出てくるのではないかと期待している。
- 基調講演の中で農作業死亡事故率のデータがあったが、アクシデントやインシデントの発生率を健常者と障害者で比較するとおそらくそう変わらないのではないか。次のアイデアとして、障害者に作業をしてもらうことで何かあったらという躊躇があるのなら、両方で事故率に差がないということを実証する等の試みも考えられるのではないか。

経営面への効果について

- 作業を分解し、その人に合った仕事とマッチングをさせることでスキルが上がっていくという根拠のようなものが示されているように感じた。障がいを持った人たちの活躍の場を広めていくということで農業経営も発展していく。また、生産工程をしっかりと管理して、誰がやっても同じ精度が出せ、安全・衛生も担保できるような農業というものを実現させる取組として考えていけたらいい。
- スマート農業の導入が障害者の作業領域を広げていく可能性もあるのではないか。
- 障がいを持った人たちが農場の中に入ってきてくれたおかげで、その波及的効果として高年齢の方が働きやすくなったり、高年齢の人たちが働きやすくなる中で女性が働きやすくなったり、女性が集まってくる場所には若者が集まってくるという、そういう構図が生まれ始めてきている。障がいを持った人たちが農業ができるということを証明していくことで、いろんな人が農業に関われるようになる。